

市川真人

ひとはみなそのむねに

小犬を抱えて

落とさないようにと 静かに歩いていて
ふと気づいた

あの人は自分を責めて去ったし
わたしはまるで無力だったけど
人はみなその胸に
かけがえのない大切なものを抱えて
一人ひとり歩いているのだと

たとえ寂しい道行きだとしても
置いてきてしまったものを
ずっと忘れられなくて
心のうつろに風が吹き抜けるとしても
大切なものはだれの胸からも離れはしない
置き去りにしたものや
消えてしまっただけ触れられないものたちが
行先には新しい姿で待っている

その再会を希望と呼んで
人はみな 大切なものを胸に
一人ひとり 一つの道を歩いてゆくのだ